

令和3年度

第3回加賀市地域公共交通会議

第3回加賀市地域公共交通活性化・再生協議会

議事録

日時 令和3年12月27日（月）
午前10時00分～
場所 アビオシティ加賀

令和3年度
第3回加賀市地域公共交通会議
第3回加賀市地域公共交通活性化・再生協議会

日 時 令和3年12月27日（月）
午前10時00分～
場 所 アビオシティ加賀

1 開会

会議成立報告 （略）

会長

おはようございます。対面の会議は久しぶりで懐かしいメンバーの顔を拝見でき、非常に幸せです。この変革の中でオンラインで会議を行う、デジタルを活用した習慣も定着してきたものと思います。本日は議題が2つありまして、加賀市地域公共交通計画がひとつでございます。そして二つ目がバス路線、現状をしっかりと見つめて、未来をつくる、現状が厳しいですから、でもそこで、でも確実に2年3年5年10年という時間は過ぎていきますので、こういうなかで未来をつくるコンセンサスをもって、立ち上がったときには一気にいくという時期なんだろうと思います。ということで、今日は大事な会議でございますので、対面でじっくりお聞きして思いを共有しましょう。それでは、最初の議事でございます、地域公共交通計画の策定につきまして、事務局で作成していただいておりますので、それをご報告いたします。

事務局

お手元資料に沿って説明を進めさせていただきたいのですが、前の方にも画面がございますので、どちらか見やすい方、ご覧いただければと思います。お手元の資料ですが、議案1というページをご覧ください。地域公共交通計画の策定にあたっては、令和2年の11月27日に地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正が行われまして、今までの網形成計画というものを国からは作ってくださいと推奨されていたわけなんですけれども、地方自治体に対して、地域公共交通計画の策定の努力義務が課されることとなりました。それを受けて、努力義務が課されるからというわけではなくて、地域公共交通をよりよく皆様に使っていただくためには、こういった計画をしっかりと立てて、それに基づいた改良や見直しを進めていく必要があるということでこの策定に取り組んでいるものでございます。そもそも、地域公共交通計画とは、2ページ上段ですけれども、地域の多様な輸送資源についても最大限活用する取組を盛り込むことで、持続可能な地域旅客運送サービスの提供を確保することを求めています、と、その際にキャッシュレスやMaaS、自動運転などの先端技術、デジタルを活用しつつ、地域の高齢者はもとより、外国人旅行者も含めて幅広い利用者にとって使いやすいサービスを提供していくことが必要です、というふうになっております。これを実現するために、このたび計画を作成に取り組んでおりまして、協議会の方から委託をして日本海コンサルタント様に作成の作業をお手伝いいただいておりますの

で、細かいところは日本海コンサルタント様からご説明いただきたいと思っております。説明資料ですが、A3 横の加賀市地域公共交通計画計画概要（素案）と書いてあるものをご覧いただきましてお話お聞きいただければと思います。

日本海コンサルタント

（加賀市地域公共交通計画計画概要（素案）説明）

事務局

公共交通計画につきましては、年明けまた御意見いただきまして、3 月末までに作成できればと思っております。いろいろな方策書いておりますけれども、全ていっぺんにできるとは思っておりませんで、ただ、どういった視点が必要かといったことをこの中に盛り込んでおいて、必要に応じて計画も見直していけるようなものとして仕上げたいと思っております。では会長の方にお返しいたします。

会長

はい、ありがとうございます。基本的データおよびアンケートに基づいて計画をご説明していただきました。裏表でまとめていただいておりますので、分かりやすかったと思います。それでは皆様からご意見いただきたいと思っております。計画は 5 年ですので、5 年後にこういう状態ができあがっていると、そしてそれが加賀市の魅力の一つになっている、加賀市の特徴がこの計画に反映されている、それが市民にも浸透している、観光客の皆様にとっても安心、企業の皆様にとっても安心、生活者のとでも安心、という加賀市のお客様がだれかということ想定していただいて、その方々が安心の状態だから加賀市へ行く、加賀市に住むというイメージが共有化できているかどうか。大切なのは、加賀市の特徴ですね、国が作りなさいというから作る、でもそれによって標準的な特徴を失ってしまったら、地域の存在価値はなくなる、加賀市の市民の皆さんが、加賀市の良さというのはこれだと、そのための手段として公共交通が、ありがたい姿を促進すると、いい計画ができるとそれだけで話題になりますね、加賀市はこういう思いを持って、現実に行うとしている、でも夢もある。上位計画としては、スマートシティ、デジタルを先取りしようとしていますから、それともリンクしていると、そういう視点でご意見を頂戴できれば、どなたでも結構です、ご意見お願いします。

委員

説明にもございましたが、国の方では努力義務ということで、このような計画の策定を設けております。計画を立てることで街を活性化する、未来を見据えた話になってきます。そういった意味で、今の段階で議論を充実させていくことは大切ですし、必要なことと考えております。資料を見ておまして、資料 1 の 51 ページのところ、公共交通で改善すべきこと、利用者アンケートの結果なんですけれども、回答の方でとびぬけて多いのが便数ということで、77%。利用されている方からの答えなのか、もしかしたら利用されていない方からの答えなのか、どんな感じで割合があるのか教えていただきたい。便数、要するに増やすことだと思いますが、今、人もいない、お金もないという中で非常に現実的でないようにも思われますが、利用者の声にどのように答えていくのか、これからの計画の中にどのように入れ込んでいくのかは非常に重要なことだと

考えております。加賀市さんの便数の話、77%というのは他のところではあまりないのかなと思って見ておったのですけれども、その意味でここは重視して計画を考えていかないとだめかなと思います。利用されていない方の場合にあっては、利用してもらえようような施策をうつ必要がありますし、今、免許返納も増えておりますので、そういった方、使われていない場合には使っていただくような施策をうつ必要があります。それは課題のなかでも一番下のところ、利用意識・情報発信のところですね、充実させる必要があるかと思えます。利用されている方の中で便数が少ないという声が出ている場合、増やすような余裕といいますか、そういう状況ではないかと思えます。それを違う形で答えていく、ひとつの答えとしてはMaaSという考えがありまして、いかに利便性を上げていくという形で、解決手段があるかと思えます。その他にも、いろんな手をうつていく必要はあるのかなとは考えております。この%が非常に大きいですので、重くみて計画の方、考えていただければと思います。

会長

はい、ありがとうございます。委員からご質問とご意見ございました。それでは事務局からご回答をお願いします。

事務局

ありがとうございました。計画書（案）の51ページのデータにつきましては、加賀温泉駅で実際に公共交通を利用されている方に対して街かど調査をさせていただいたものです。しかしながら、この数字すべてがバスだけの要望なのか、乗り合い号だけの要望なのか、というわけではなくて、電車、バス、乗り合い号全体に対してお聞きした中でこういった要望が出てきた、ですから、ここの路線に対してというわけではないと認識しております。数字としてはかなり大きな数字がでておりますが、加賀市としても増便については気を使って取り組んでおりますが、なかなか1便増便するのもハードルが高いものがございますので、木村委員おっしゃったとおり、MaaSですとか使いやすさの面で、便数は増えてないんだけども乗り継ぎよくなったから使いやすくなったような気がするなというふうに、皆様に感じていただけるようなことをまずは進めていきたいと思っております。可能であれば、例えば利用数が増えてきた時間帯であったりとか、出てきた場合には増便なども検討していきたいと考えております。

会長

はい、ありがとうございました。今の回答もそうですけれども、数値で語ると分かりやすいですね。数値目標をこの計画の中にいれませんか。基本方針をさらにおとして、たくさんあると思うんだけど、5つ以内にして、その数値は現状こうだけれども、5年後にこうすると、意志になりますよね。今の段階は現状から把握して、こう決めてらっしゃるからいいんだけど、それに意志が入らないと、みんなやろうとならないですね。便数と利用率ですね、便と利用というのは掛け算なので。それと免許返納率とかね。思い切って決めてみませんか。免許返納もこうこうで、場合によっては自家用車の活用比率とかは先ほどでてましたけども、あれを2割減らすとかね、そして2割公共交通へ変えるとかね。というための公共交通あるいはイベント、企業への協力、あるいはSDGsみたいな形で展開されますよね、学校教育も企業の活動もSDGs、持続可能、環境、カーボンニュートラル、というふうなものが当然入ってきますよね。そうすると

自家用車も現状の活用の仕方でもいいのかと、当然見直しかけますよね。そこに公共交通と連携するとうだとかね。数値目標決めませんか。そうすると議論しやすくなる。ということで、委員から良いご指摘がありました。ありがとうございます。他の皆様いかがでしょうか。それぞれのお立場でこの計画に対する思いでも結構です。免許の問題が出ましたので、大聖寺警察署の方をお願いします。

委員

大聖寺警察署です。今ほど運転免許の返納の話がでましたけれども、返納数につきましては、昨年度250件程度、一昨年につきましてもおよそ同数の水準で、ただ全体的な傾向としましては増加傾向にあるのかなと思っております。加賀市につきましては、交通事故の発生状況につきましては、今年1月～現在まで3名の方が交通事故でお亡くなりになっております。3名の方いずれも65歳以上の高齢者となっております。今後、運転免許の返納については警察としましても引き続き返納を促していかなければならないと思っているんですけども、実際、警察署の方で勤務してまして、返納の受付、カウンターでの対応してまして、なかなか免許返納したあとに移動手段がないといったお話ですとか、交通事故、頻回事故者といまして、各家庭訪問しているんですけども、やっぱり自家用車を返してしまうと移動手段がないという話をよく聞きます。今後MaaSとかで利用意識・情報発信という面で、運転免許の返納制度の情報発信であるとか、本年も12月1日から交番や駐在所とかで免許返納できるようになったんですけども、情報発信と一緒にしていくことで運転免許の返納が増加して、公共交通の活性化につながるのではないかと思います。

会長

はい、ありがとうございます。ということで、5年後くらいを目標に決めていただいて、それを計画に取り込むというふうにされると、加賀市のひとつの魅力ですよ、公共交通の価値が追加されるというふうに思います。一方、公共交通の顧客は学生さんですが、教育関係からみていかがですか。

委員

大聖寺実業高校です。路線バスの一番利用率の多いのは、山中、山代を通過して、高校前まで来るようなキャンバスですよ、それが一番多いですね。個人的に思うのは、加賀3校の代表で来ているんですが、3校の場所が、大聖寺に2校、動橋に1校ですね。昔は特急が大聖寺と動橋に停まって、小松に行くという感じだったので、学校ができたころは街の中の学校だったと思うんですけども、今は大聖寺の地区も動橋の地区もさびれておりまして、加賀3校もさびれてきているといった状況ですので、やっぱりこれから北陸新幹線延伸になって、加賀温泉の方にも外国人観光客が増えてくると思いますし、大聖寺、動橋あたりは、昔の輝きを取り戻せるようなパイプ作りをしていただけないかなと思います。今、加賀市の別の組織の方で、加賀3校活性化プロジェクトをやっていただいております、その解決策のひとつが、大聖寺駅の活性化、大聖寺駅のところに高校生たちが集まれるスペースがあるといいんじゃないかというのがでていますので、そこらへんに上手いこと公共交通、JRのできないことをつなげていただけたらなと思います。ですので、イメージのところにも、街の活性化、大聖寺地区、観光資源もいっぱいあると

思いますので、そのへんを活性化するという視点で線をつなげていただけたらと思います。

会長

はい、ありがとうございました。3校の活性化というのは加賀市全体の課題ですよ。若い人がいなくなったら、過疎化が加速する。その中で数値目標化するといいですよね。あとは、ご老人ですよ、一方で人生100年という流れがある中で、この計画に対してご意見いかがでしょうか。

委員

先ほどから、免許の返納とかそういうことは、以前から相当問題になっているのですが、会員の中でも免許を返納して、1か月くらいは若い人がいろいろと援助してくれるのだけれども、老人クラブの方で誰か自家用車持っている人はいないか、という話がよく出てくるのです。ただ、最近、高齢者の事故が非常に多いもので、今までそういうことをちょっとやっていたことも、責任を後から問われると嫌だということで、みんな断ってしまった。そうすると、催事をするときの距離が長いような人がクラブの中に入っているけど、だんだん活動ができないから、退会される方とか、起こっています。なかには、免許更新の時に、何とか0.7見ればいい、よく話を聞いたら、息子が日中いない、短い2,3キロ走る行動範囲の中でもいいから免許を持っておきたい。だから目は瞳孔の真ん中でないと見えないのだけれども、全体はぼやっと見えて、0.7は確保できるから、離さないというようなことも聞いていますので、MaaSとか細かく対応ができるような形で進めていただけると、高齢者の方、元気になってくるんじゃないかと。そうするとタクシーで行くにしても、ちょっと距離があったら、500円とか1,000円になってしまうと年金生活の方というのは、閉じこもりがちになったり、施設の方へ入られたりというような、悪循環もありますから、加賀市の方でテスト的にMaaSなんかをやっておりますが、横浜とかそういうところにいる知人の方は、加賀市長さんなかなか宣伝が上手だから、色々横文字を使いながら時代の先端を走っていくというところが見えるから、非常に期待ができるんじゃないかというような話を伺ったりするんです。そういう意味では、今のところ、山中から大聖寺、塩屋から山代までとか乗り継ぎがあるのだけれども、乗り継ぎの便利さとかある程度できれば、行動範囲が広がるから、そういう点でも気を付けていただければ、少しだけでもしょうけれども、利用率も上がってくるのではないかと、思います。行動範囲の狭いところでも動けるようなMaaSとかで運営できるような、スマホでやるとか、スマホはいま高齢者の3分の1は持っていませんもんね。通信機器の発達にあわせたことも配慮に入れていただきたいというふうに思います。

会長

はい、ありがとうございました。大切なご意見でしたね。活動範囲が高齢者はこの地域が多いとか、それを数値化すればね、皆さんプラスの目標になってきますよね。数値目標というのはSDGsで浸透し始めましたから、従来の数値目標、管理型ではない動機付け型ということで。あとは観光客、計画の大切なお客様ですから、域外の観光客のお客様にいかに魅力を向上するかについてご意見をいただきましょう。観光交流機構の方。

委員

ここに記載のとおりなのですが、お客様ということになると、電車の時間にあわせたような本数があると、利便性があがると思います。

会長

はい、ありがとうございます。その他、ご意見ありますか。

委員

もう一点、これはキャンバスさんのところに課題にもでていますが、駅と温泉地をつなぐバスというのは、ある程度加賀温泉駅を起点にあるんですけども、温泉地と温泉地をつなぐときのバス、というのはお客様からお声いただいております。

会長

はい、ありがとうございます。その他、ご意見ありますか。というような視点で利用者、お客様視点から意見を吸い上げていただいて、5年間ありますので、現状延長の数値目標ではなくて、未来型の目標という視点も入れていただければ、計画が魅力的になると思います。名前を一応決めていただきましたので、仮に素案で KAGA スマートあんしんネット。KAGA の下に温泉、加賀温泉安心ネットという、全国で唯一です。下に温泉マークをいれる。横に入れると長くなるから。KAGA スマートあんしんネットでいいとしても、下に温泉、加賀温泉安心ネットというふうにと考えると、温泉の意味って何、温泉の価値って何、とたぶん変わると思うんですよね、アフターコロナで。温泉パートがこの地域のファンになって、デジタルでつながれば、そういう形に将来なっていくんじゃないですかね。計画の作り方そのものも魅力的にしていれば、他の地域が参考にするような、場合によっては現状分析と、基本理念の間に、SWOT 分析を入れてもいいんですよね。SWOT 分析は、現状、強みと弱み、機会、脅威、だから安心、だからこの数値目標だというふうにすると、より戦略的、未来志向の計画になると思います。どうしても現状延長上で、未来志向が暗黙的に入る、それを論理化した方が、未来をつくると、それが上位計画ともリンクする、そうすると全国の加賀市の活動に対する期待、リピーターになる、ここに住みたいとかね、ここに企業を誘致したいとかいう流れになってきますから。工夫していただけるといいかなと思いました。

ご意見を思いつかれたら、事務局の方へ。魅力的な計画を作っていく、そのために国も支援していただく、国の制度を活用して自分たちの思いが見える化する。討議してコンセンサスを作ってしまう、というような計画になると素晴らしいと思います。

ご意見色々いただきましたので、これで承認ということでしょうか。はい、ありがとうございます。ではこれで承認ということで、皆様のご意見吸い上げていただいて、魅力的な計画にしましょう。

それでは2つ目の議事がございます。これは路線バスの変更です。事務局よりご説明お願いいたします。

事務局

続きまして議事2つ目に移らせていただきます。路線バスの変更についてということで、京

福リムジンバス株式会社様から、同社が運行しております、一般乗合路線永平寺おでかけ号の担当営業所の変更についてということで、今回、京福さんにもお越しいただきまして、ご説明をいただきたいと思っております。概要だけ申し上げますと、元々、京福リムジンバスさんで運行している永平寺おでかけ号を、丸岡の方から運行している現状がございまして、こういった燃料費等も厳しい状況にあるなかで、出発地である片山津の方から、動かすことができるように変更したいというような趣旨の内容でございます。よろしく願いいたします。

京福リムジンバス

(説明)

会長

はい、ありがとうございます。加賀温泉からおでかけ号というこのスタイルは非常にいいなと思うのですが、永平寺以外はあるのですか。今回の便が初めてですか。

京福リムジンバス

おでかけ号というスタイルで運行しているのはこの一便だけです。ただ、福井県側で永平寺から福井駅までというものもございまして、通り抜けして、JR 乗られて帰られる、そういうご利用の方もいらっしゃいます。

会長

各地へネットワークが張られると素晴らしいと思いました。では、御意見頂戴します。まちづくり加賀さんいかがでしょうか。

委員

まちづくり加賀でございます。京福さんは永平寺というのは加賀温泉郷にお泊りになったお客さんが良くいかれる東尋坊、永平寺、そういうところに走らせていて、私どもはバス委託しておりますけれども、いろいろ運行的に苦慮されているということも聞いておりまして、当然、この便は観光客にとって、また弊社にとっても、いいお話だと思います。以上です。

会長

はい、ありがとうございます。ネットワークが増えるといいですね。観光客の方にとっても加賀温泉ネット。続いては、北鉄加賀バスさん。

委員

加賀バスでございます。冒頭に、従来、加賀温泉バスという名称でやっておりましたが、7月に加賀温泉バスに小松市に小松バスという会社がありまして、合併して7月から営業しているという状況なものですから、よろしく願いいたします。今の、一般乗合路線の担当営業所の変更についてということで、京福リムジンさん今後もこの路線を維持されるという決意の中で、こういった変更を出されたんだろうというふうに思いますので、同業者としても、それについては敬意を表したいと思っておりますし、今後ともぜひ頑張ってくださいと思っております。以

上です。

会長

はい、ありがとうございます。あとお一人、観光交流機構さんいかがでしょうか。

委員

機構でございます。私どもの方でも京福さんをお願いする形で、おでかけ号運行いただいております。大幅に予想人員が減ったなかで、工夫して路線維持に頑張ってくださいまして、感謝申し上げます。ぜひ、こういう工夫をいただいて、令和5年度には北陸新幹線の南加賀敦賀への延伸が控えておりますので、南加賀から直接永平寺に向かえるというのは非常にお客様への利便性もさることながら、地域にとっても、意味のあることだと思いますので、こういう形でなんとか頑張ってくださいるのであれば是非お願いしたいと思います。以上です。

会長

はい、ありがとうございます。ぜひ頑張ってくださいと思います。そして他のお出かけ号、加賀温泉郷からのおでかけ号のネットワークというものもお考えになったらいいかと思います。そして従来のシステムと連携するという構想へつながるといいなと思いました。

では、ご報告とご意見いただきましたので、このバス路線の変更はご承認ということでよろしいですか。はい、ありがとうございます。

ということで今日は2つの案件でございました。その他の報告、または共有すべき事項がございましたら事務局からお願いします。

事務局

(加賀 MaaS アプリのサービス開始について(案)の説明)

会長

ありがとうございました。加賀 MaaS 来年からスタートということで、生活が便利になることによって、それぞれの動き方が活性化することもあるなと思って聞いておりました。あるいはご質問ありましたらお願いします。

委員

全国に先駆けた取組で期待したいところなんです。現時点で、システム構築中ということなので決まっていないのかもしれませんが、地元と住民の方が使われる前提なのでしょうけれども、観光のお客様が使われる見込みというのはどのくらいあるのか、今のところ分かるようであれば教えていただきたい。それから2つ目は、細かいのですが、クレジット登録されるということですが、一回一回消えるのか、そのまま残ってずっと使えるものなのか教えていただきたい。それとキャンセルかけたときのキャンセル料、よく他のところだとキャンセル料一回一回引かれるところもあるのですが、そこもどうなのか興味があります。あと加賀 MaaS というこれも正式にきまっているのかわからないのですが、我々もう MaaS というのは、加賀にいるので聞きなれた言葉なのですが、一般のお客様や市民の方に、MaaS といふとなかなか、分かりやすいのか分かりにくい

のか、もうちょっと馴染みのあるものにしていけるといいのかな、と普段から思っているので、そのあたりも教えていただければと思います。

会長

はい、ありがとうございます。よろしくお願いします。

事務局

第一の想定としては市民のみなさんが想定のお客様になります。とはいえ、観光客の方につきましても、このアプリをおとして、使っていただくことについては、使えるようなものにしていきたいと考えておりました、ひとつ懸念点がありますのが、乗り合い号につきましても市民の方しか使えない乗り物ということで、その整理は必要かと思いますが、加賀に来てこのアプリをおとしていただける観光客の方についてはもちろんご利用いただけるようなものにしていきたいと、ただ主眼はまずは地元の方にしっかり使っていただけるサービスを盛り込んだものをアップロードする。拡張性のあるアプリということなので、こういう機能も必要だよねというのを取り込みつつ、もっと便利なものにしていきたいと考えております。

クレジットカードですけれども、一度登録すれば残っております。キャンセル料のところなのですが、今数値がぱつとでてこないのですが、仕組みを確認させていただいて、ご回答させていただければと存じます。

事務局

補足させていただきます。先ほどの観光の利用という話もございましたが、結構前に発表して遅れて申し訳ありませんが、加賀市はe-加賀市民制度という、市民と市民以外、さらにもうひとつのステータスを設けようとしております。これはxIDアプリケーションというのを最初使っております、マイナンバーを最終的な認証の最後、トラストアンカーと呼ばれているんですけども、これを使いまして、新しいステータスを設けると、これは、e-加賀市民制度というステータスを与えることによりまして、加賀市民と同等のサービスを受けることができると、そういった制度を今構築中ではございました。マイナンバーを使うというところで、いささか法的に問題があるのかという疑念が生じたもので、少し取組が遅れていましたが、そこはまず問題ないという答えがでましたので、急いで構築すると、そういった方に市民と同等のサービスを与えることによりまして、コロナ禍で急加速しておりますワーケーション、リモートワーカー、そういった方または移住を検討している方、1日2日来ただけで、そこに住めるのかというのは、いささか問題がございまして、こういった方で加賀市の方に長期滞在できる仕組みを構築しようとしております。そういった中で、お試し移住のような形で住んでいただきまして、気に入った方はリアルで本当の移住につなげていくと、そういった形で関係人口を増やしていこうということで進めていまして、まずはそういったところの利用の方から始めさせていただければと考えてございます。

会長

はい、ありがとうございます。どうぞ。

委員

市民の方から始めるということで、もちろんだと思のですが、せっかく加賀市が先駆けてこういう仕組みを作るのですから、例えば、行政上の制約もあるのかもしれませんが、もっと広域な小松エリアとか福井の方とかの交通機関にも、先ほど拡張性という言葉もございましたが、そういうことも想定してらっしゃるのですか。その交通機関さんがどう思われるかは分かりませんが。

事務局

市外につきましては、こういったかたちでというお話は出来ていないところではありますが、金沢市さんですとか、情報交換は常々させていただいておりますので、今後の拡張性のなかで連携した取組というのが出てくるかもしれないとは当然思っていて、そのへんも含めつつ、我々としてはオファーがあったときにすぐに受けられる、こちらからもこういうことしたいなというときに変更できる仕組みとして導入を目指しているところでございます。何かこう変更したらいいのではないかというご意見等ございましたらおっしゃっていただけたらと思います。

会長

はい、ありがとうございます。非常に貴重なご意見だと思います。観光客、周辺の地域は想定していただいた方が、店舗とか旅館が本気になります。地域が本気になる。企業にしても学校にしても、学生さんをいかに確保するか、企業は若い人材をいかに自分の会社に引き込むか、最大の課題ですので、成功すれば非常に広がると思います。今のご意見非常に大事です。顧客は誰か、顧客を自らあまり限定しないことです。

他にご意見いかがでしょうか。

委員

加賀第一交通です。先ほどからのクレジットカード登録等につづくのですが、クレジットカードを持たれていない方というのはどうしたらいいですか。学生さんだったり、バスやのりあいを利用する場合は、自分のケータイで登録すると思うのですが、親御さんのクレジットカードを登録するという形ですね。実際登録してチケットを購入したあとのクレジットを削除して、購入したチケットは残ってるという認識でよかったですか。

事務局

はい、ありがとうございます。今のお話ですが、すでに吉田さんからご意見いただいております。今どういった形で実現できるかは申し上げられないので資料の中には入れられなかったのですが、例えば親が買ったチケットを、そのお子さんに対して使えるようにする、親が買ったものをそのアカウントとつながっているお子さんのアカウントの送ることのできる仕組みだったりとか、使えない人、例えば高齢者の方がクレジットカードを持ってなくて使えない、代わりにお子さんが購入したものを渡せるというようなことも、もちろん検討の中には入っております、ただ、こうできますというものがまだできていないもので、資料の中には入っていませんが、含めて考えております。

会長

ということで、よろしいでしょうか。今日は、議題は少なかったですが、非常に大事な計画と新しい路線変更と MaaS、MaaS も加賀 MaaS あるいは加賀温泉 MaaS という名前が大事ではないかと思えます。それでは副市長、行政の状況含めて総評いただきましょうか。

委員

ありがとうございます。今、会長の方からお話ございましたが、公共交通計画の中で数値目標入れたような形で定量的な検討をしたらどうかといった提案がありました。私も大賛成です。話がそれますが、先日、東京の方で研修がございまして、元官僚の事務次官クラスまでやった方なのですが、その方の講演がありまして、テーマが人口減少だったんです。私ども、ご存じのように、消滅可能性都市ということで、人口減少が非常に重要な課題になっているものですから、話としても関心があって聞かせてもらいました。中身というのが、実はいろんな政策をやるのは悪いことではないけれども、一番大事なのは、女性がリターンしてすぐに職場に復帰できる時の環境をつくることの方がよっぽど大事だと、それをやっているのが、スウェーデンとフランスなんかは当たり前に行っていて、産休、育児休業を取るのが、一種のポイント制になっていて、そういう仕掛けをやっているんだと。政策として、子育てや教育をやるのは当たり前なんだけど、むしろそっちをやっていることで、結果的には増えていると、かいつまんで言うとそれだけの話なのですが、それを定量的にずいぶん細かく分析し、検討している内容を研修させていただきました。それを聞きながら、今から5年後どうなんだろうなど、思っていた矢先、今日の会議でございました。5年間の道筋を考えた公共交通の計画ですと、5年後は市の高齢化率は30%を超えて30~35%の付近にいるだろうなど想像します。人口の65歳以上の方が3割5分くらいはいるだろうというイメージです。一方で2024年は新幹線が開業しますので、市の施策のなかでは、千載一遇チャンスですし、もう二度と私が生きてる期間中にはないチャンスですので、これを活かした政策というのは極めて重要という位置づけになっております。そんな意味で、新幹線駅周辺のリフォームとまちづくりに主眼をおいた傾注をやらないといけないという視点で取り組んでおります。そのへんも考えたときの観光戦略というもの、そのときの加賀市の人口動態を踏まえたときの、先ほど会長さんのお話にありましたように、人生100年時代、なるべく元気で頑張っ、社会に参画しながらやってもらおう社会なんだろうなど考えるとすると、それを念頭に置いた公共交通の施策というものもあるのだろうと思って聞かせていただきました。公共交通の中身のなかでは、身の丈に応じたということがこれからも話題になってまいります。人口6万ちょっと超えたくらいの市民の担税能力がどのくらいあるんだろうか、こういったことの定量的に検討しないとなりませんし、市民が免許返納していったときに、お得感のある仕組みができていないと、実際にはなかなか機能しないのかなという気がいたします。結局、公共性とは何か、どういう方向に向かうべきなのか、定量的にとらえる仕組みが今求められていると実感したしだいです。そういったものも意識した公共交通の中に私どもとしても傾注努力していきたいと思ったしだいです。以上です。

会長

ありがとうございます。皆様のご意見も吸い上げていただいて、5年後、10年後含めた加賀市の有り様のお話、ぜひ特色ある数値目標をいくつか入れましょう。全部じゃなくていいですか

ら、そうすると、全国が応援してくれます。国も応援してくれると思います。あっと驚くような目標が一つ入っていると、そこが魅力になるかなと思いました。あくまで、お客様なんですよ、計画というのは、大事なお客様というのは当然市民、ご老人、学生さん、お子さんを増やそうとすると女性、それから域外の観光客、もう一つ大事なのが事業者さんなんです、病院、店舗、ものづくりそういった皆さんが参画して、デジタルが先行しようとしていますから、ちょっと工夫すると本当に魅力的なプランになるなという気がしました。ありがとうございます。それでは事務局の方にお返しします。

2. 閉会